

点検整備・
その他
事例
1

ホース点検等のため分団車庫からポンプ車を移動させようとエンジンを始動したところ、変速機が何速かにつながっていたため危うく道路に向かって前進しそうになった。

結果 負傷者なし

▶▶▶ 対策

エンジンを始動する前に、変速機がニュートラルになっていることを確認する。

サイドブレーキは所定の位置まで引く。

始動するときは、ブレーキペダルを踏み込んでスタータースイッチを回す。

点検整備・
その他
事例
2

水利点検終了後、帰所し車両のポンプ内を清掃する際、機関員が車輪止めを忘れ、サイドブレーキを位置まで引いていなかったこと、車庫前の道路が傾斜しているため、車両が動き出し、前にいた団員が轢かれそうになった。

結果 負傷者なし

▶▶▶ 対策

車両を完全に停車するときは、必ず車輪止めを施し、サイドブレーキを所定の位置まで引く。

車両は、可能な限り平坦地に停車させる。

点検整備・
その他
事例
3

住宅火災現場活動から帰所後、使用したホースを洗浄した。その後、乾燥するためホース2本を屋上に引き上げる作業中、ロープの結索がほどけてホースが落下した。それを避けようとした団員が転倒し頸部をコンクリートに強打、更にホース金具が手に当たった。

結果

後頭部挫裂創、頸部挫傷、
右手前腕手首～示指広汎裂創

▶▶▶ 対策

ホースを引き上げる時は、直下に位置せず、万一落下しても直接身体に危害が及ばない距離を保つ。

作業中は、必ず安全帽を着装する。

ロープ結束後は、必ず半結びを取る。

点検整備・
その他
事例
4

詰所前の空地で積載ポンプの点検をするため、車両から可搬式ポンプを降そうと2名で持ち上げたとき、背中を丸めた姿勢で急に持ち上げたため、団員1名が腰部の痛みを訴えた。

結果

腰部痛

▶▶▶ 対策

基本の姿勢は、骨盤の上に頭を置く姿勢とする。

重量物を持ち上げる時は、折りひざで背骨を伸ばし、腕と足の力で立ち上がる。

常日頃から、背筋をきたえる。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

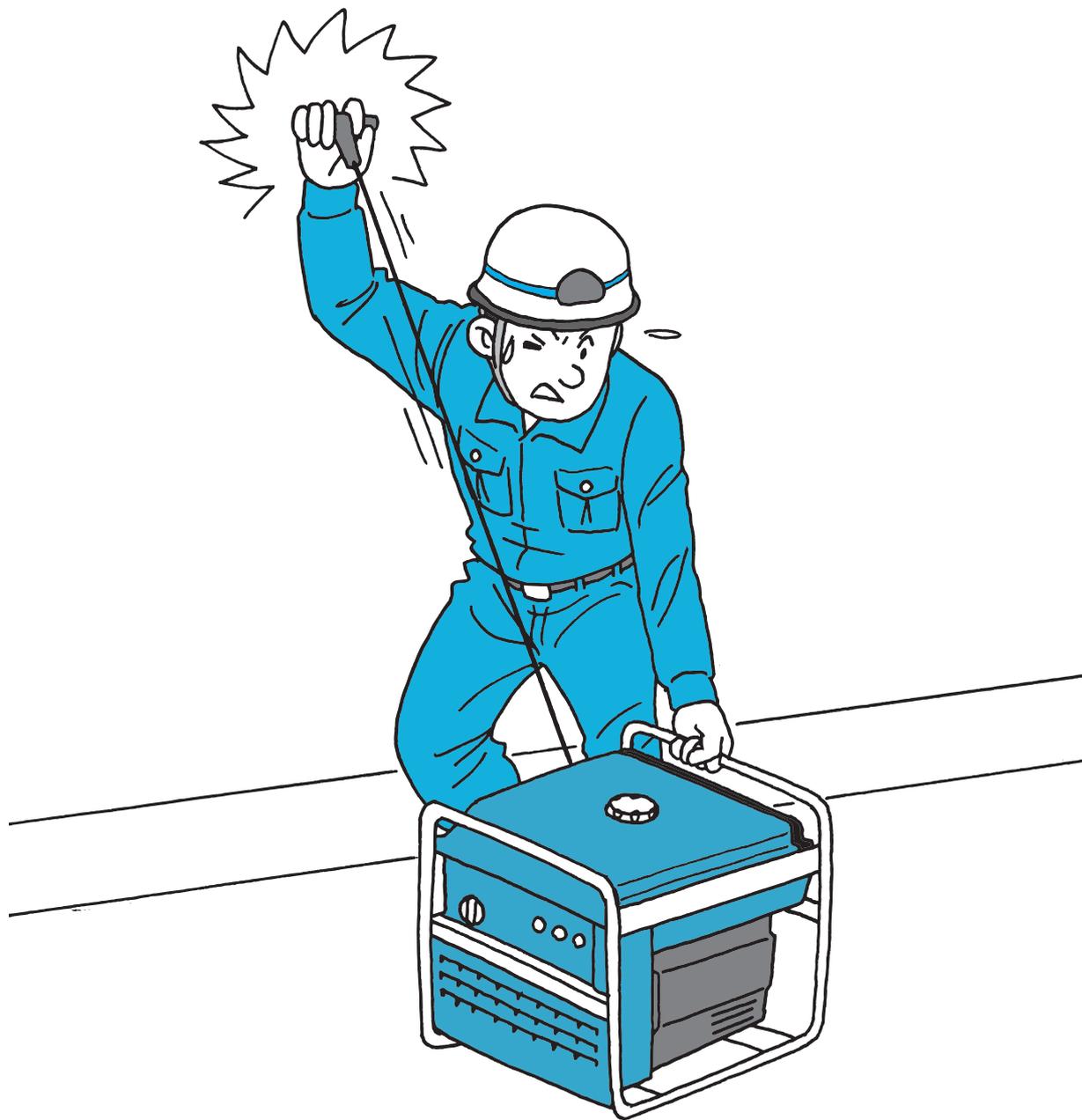
ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・
その他
事例
5

消防団器具置場内で発動発電機の点検を行い、エンジンのかかり具合を確認するため、始動索を引いたとき勢いあまって手の甲を壁に強打した。



結果 手打撲

▶▶▶ 対策

- 十分な作業空間を確保する。
- 手袋を着用する。
- 単独での作業を慎み、必ず安全管理員を配置する。

点検整備・
その他

点検整備・
その他
事例
6

防火水槽を点検し、水量の確認が終わり開閉金具を使用して2名で蓋を降ろそうとしたとき、1名がかかとを窪みに引っ掛けバランスを崩したため開閉金具が蓋からはずれ、蓋が右足の甲に落下した。



結果 右足背部打撲

▶▶▶ 対策

作業開始前、防火水槽の周囲や地盤面の状況を確認し、窪みがあるときは埋め戻しをする。

必ず安全靴を着装する。

2名で作業を行うときは、声掛けをし、タイミングを合わせる。

蓋が重いときは、可能な限り持ち上げず横にスライドさせて開閉する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・
その他

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

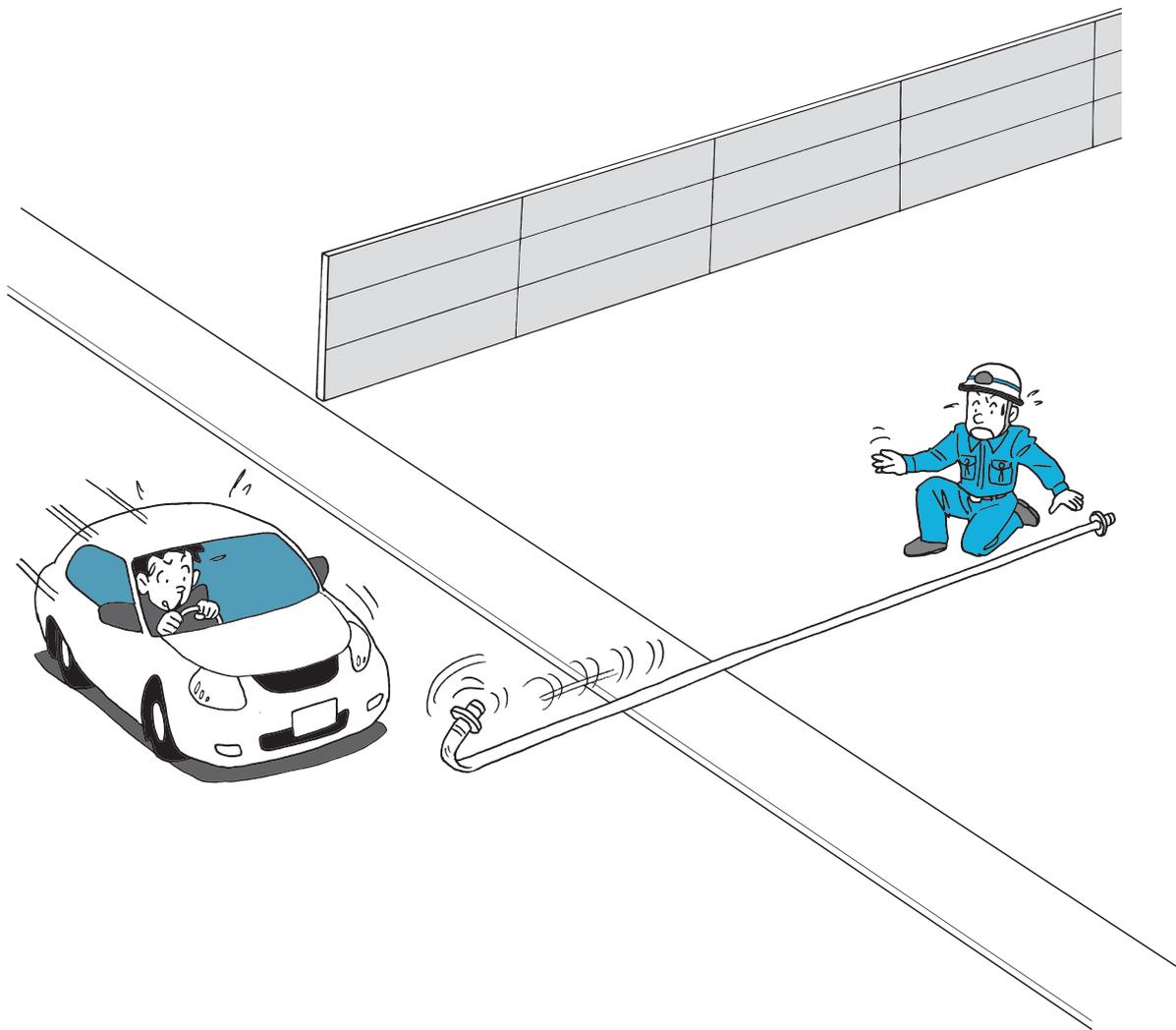
ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・
その他
事例
7

火災現場から帰所し、使用したホースを洗浄するため、道路に面した分団器具庫前のスペースで一重巻きホースを勢いよく延長したところ、道路に飛び出したホースが、走行中の一般車両に接触しそうになった。



結果

負傷者なし

▶▶▶ 対策

作業は敷地内で行う。

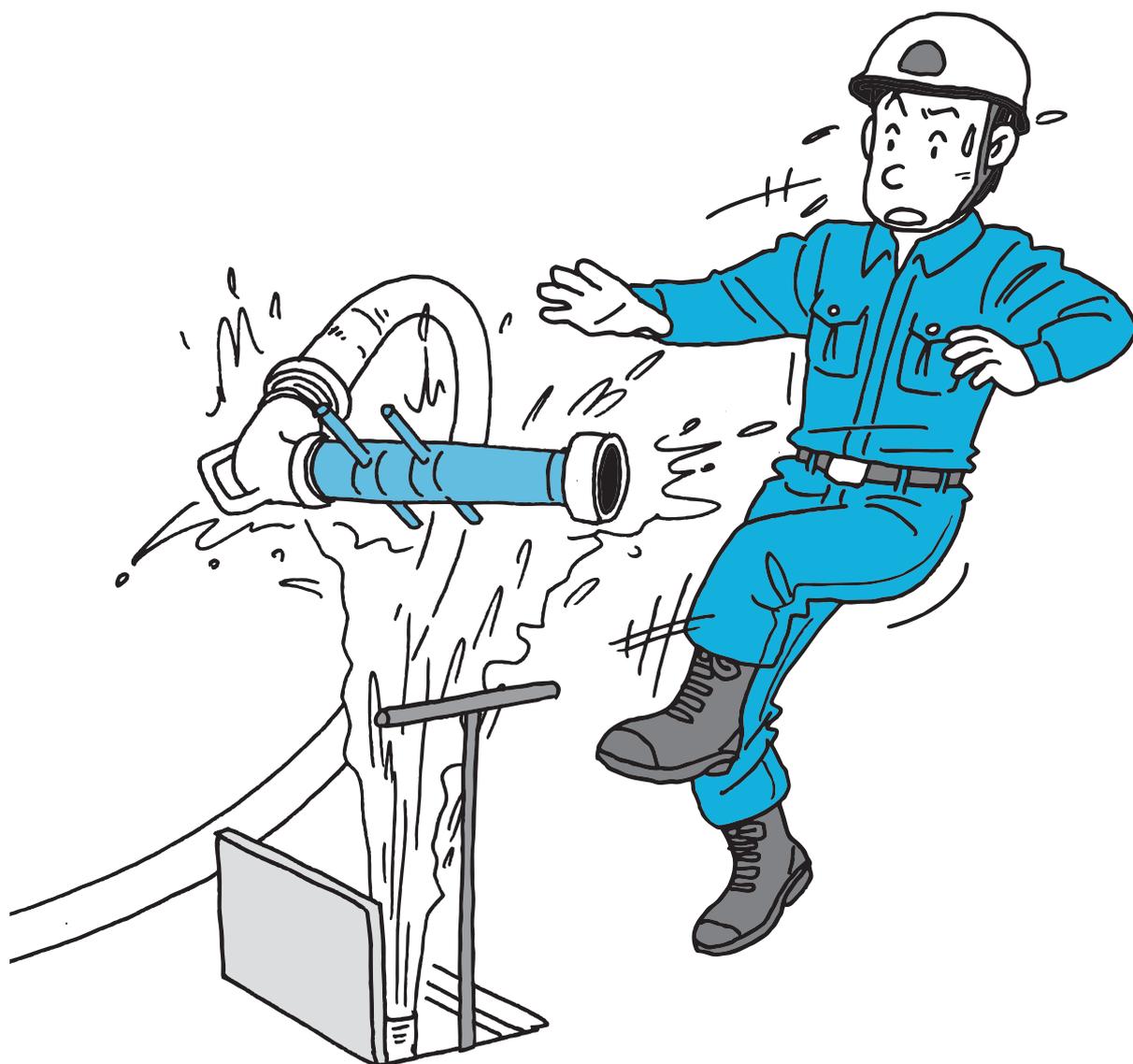
公道にはみ出す恐れのあるときは、敷地と道路の境界に安全管理員を配置して監視する。

丸めたホースは、ほどくように広げることとし、放り投げは禁止する。

点検整備・
その他

点検整備・
その他
事例
8

器具庫近くの消火栓でホースの点検をするため消火栓に直接スタンドパイプを結合し、ホースを結合して放水した際、スタンドパイプが消火栓から離脱して飛び跳ねた。



結果 負傷者なし

消火栓放口の泥等を取り除いた後、若干の水を出してからスタンドパイプを結合する。

スタンドパイプを結合したときは、回したり引っ張ったりして確実に放口に結合されたことを確認する。

放水を開始するときは、徐々にスピンドルを開ける。

▶▶▶ 対策

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・
その他

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

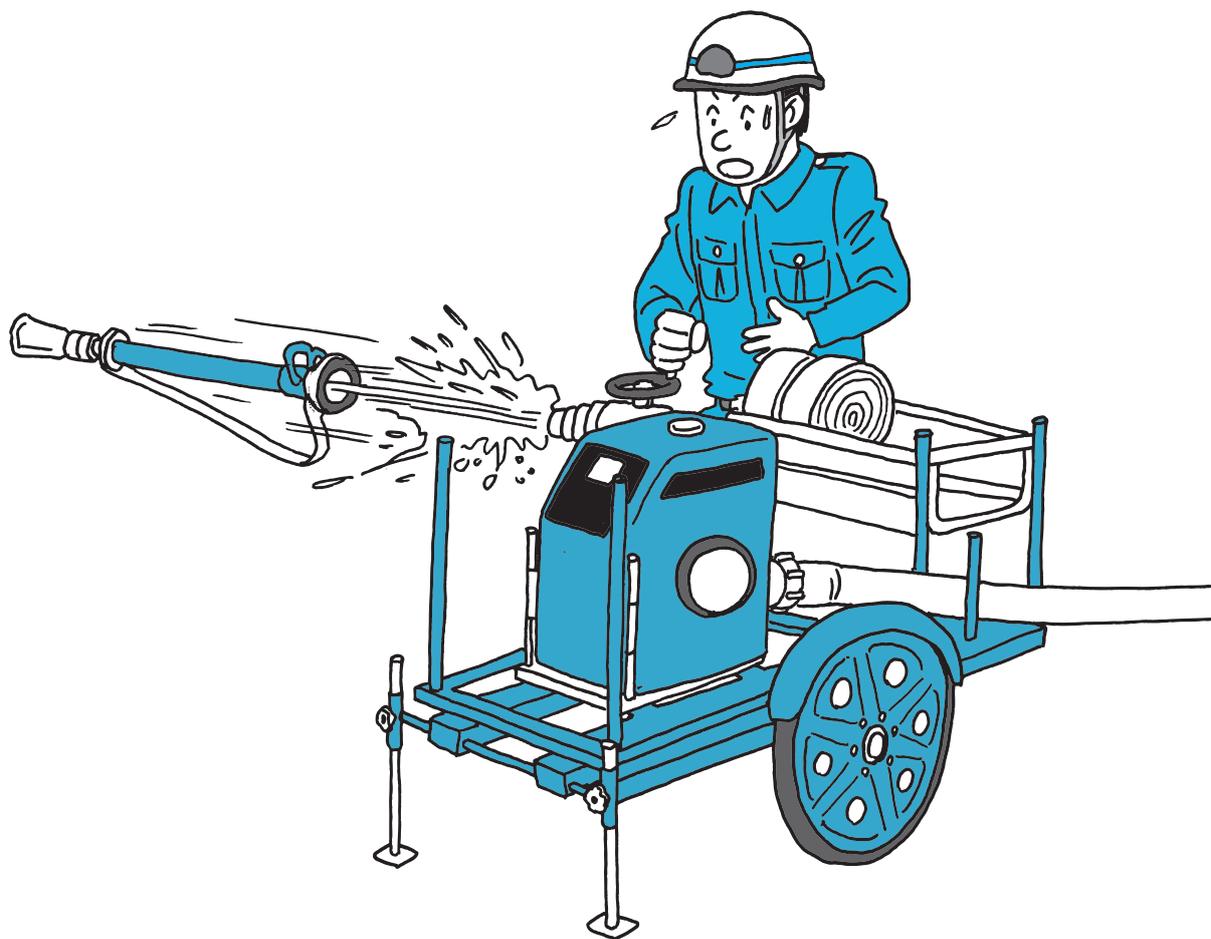
ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・
その他
事例
9

詰所前の路上で道路脇の自然水利（池）に部署し、点検並びに放水を行うため、ポンプ放口に管鎗を直接結合した状態で放口を開いたとき、管鎗が放口から外れ前方に飛び出した。



結果

負傷者なし

▶▶▶ 対策

管鎗、ホース等を結合するときは、結合部分を再度押し込んだ後、引っ張る等の方法で結合されていることを確認する。
ネジ式の場合は、噛み合わせ具合を確認する。

点検整備・
その他

点検整備・
その他
事例
10

公園内で地域住民に対して防災訓練指導中、毛布と棒2本で応急担架を作り、要救助者を乗せて搬送する際、搬送者4人のタイミングが合わず、要救助者が担架から滑り落ちそうになった。

結果 負傷者なし

▶▶▶ 対策

団体で訓練を行うときは必ず指揮者を決め、全体を把握し、適時、適切な指示を行う。

指揮者は応急担架の後方に位置する。

担架を持ち上げるときは、全員で「準備ヨシ」の掛け声を発した後、指揮者の「立て」の合図で一斉に持ち上げる。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・
その他

事故・ヒヤリハット事例集検討会委員名簿

消防基金S-KYT指導員

井上 勝明	宇都宮 良幸
大 国 幸雄	岡 田 孝範
岡 松 弘明	小 田 敏数
上木原 一志	河 村 信利
佐々木 武夫	鈴 木 範男
関 根 弘	多々羅 光男
谷 垂 生	千 葉 俊也
傳 平 益三	野 澤 修
福 井 啓剛	藤 津 誠
南 屋 丞	吉 原 伸二

日本消防協会

業務部課長 富 沢 広 友

消防基金

常務理事 内 貴 滋
事務局長 吉 崎 賢 介

事務局

審議役 高 砂 清 彦
企画課 佐 藤 郁 夫
矢 部 好 子

安全管理セミナー・テキスト
消防団員の事故・ヒヤリハット事例集

発行 平成 23 年 3 月
編集 消防団員等公務災害補償等共済基金
住所 〒 105-0001
東京都港区虎ノ門 2-9-16 日本消防会館 8 階
電話 03-3595-0544
F A X 03-3581-7720
E mail kikaku@syouboukikin.jp
<http://www.syouboukikin.jp>
